



令和4年1月11日
令和3年度学校だより NO.41②
加古川市立平荘小学校

1月は行く、2月は逃げる、3月は去る

令和3年度も、残すところ3学期となってしまいました。実際に、子どもたちが登校してくる日数は、6年生が（今日を含めて）50日で、1～5年生が51日です。

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、3学期はあっという間に月日が経ってしまいます。子どもたちには、生活面・学習面ともにより締めくくりをして次年度をスタートしてほしいと願っています。そのためには、しっかりと自分の目標を立てることが大事です。

目標を考える

子どもたちには、始業式に、目標を立てることの大切さを話しました。

箱根駅伝で有名な青山学院大学の原晋監督は、目標設定について次のように話されています。

「道筋をつけることができればどんな目標にも近づける。抽象的、実現不可能な目標設定であってはいけない。」と。また、「目標は『半歩先』に置き、それを目指して練習する。途方もない目標は、ただの妄想。『半歩先の目標』は、達成可能な目標に挑戦させるため、そしてモチベーションを上げるためでもある。目標設定には、自分自身の実力、立ち位置も理解していなければならない。実現可能な目標を立てて成功体験を積み上げていく。立ち位置が定まらないと、次の目標を描くことはできない。本人が把握しているからこそ、さらに半歩、半歩と歩みを進めることで成長を実感し、喜びを感じることができる。（『人を育て 組織を鍛え 成功を呼び込む 勝利への哲学157』より）」と述べられています。

「成程な」と納得します。目標・めあてを立てる時の参考になります。

3学期初日の学級活動

どの学年も、どんな3学期にしたいかをクラスで確認しながら、3学期の組織づくり（係や学級役員）について話し合いを行いました。

係を決める際には、一人一人が責任を持って活動できるよう、係の必要性についても話し合っていました。



5年生の様子です



みんなが気付いた時に配達しているので、配達係は無くしてもいいと思います。

みんなが配ることがあっても、配達係は必要だと思います。

6年生の様子です



やる気が一番！
やらされるのではなく、主体的に活動ができるよう自らの意志で役割の決定を！

6年生にとっては、小学校生活最後の学級の組織づくりの話し合いです。

友だちの気持ちにも寄り添いながら組織づくりをしていました。

『見えないところ』を感じる心を育てたい 《金子みすゞの宇宙より》

右記は、金子みすゞさんの『大漁』という詩です。私たち人間にとっては、「大漁」というと「喜び=まつり」のイメージがありますが、金子みすゞさんは、「見えない海の底の魚のかなしみ」にも思いをはせています。

事象は、見ている方向（視点）によって、感じ方が違ってきます。

子どもたちは、日々いろいろなことを体験しながら成長しています。ふだんの教育活動ばかり、学校行事ばかりですが、その体験を通して、ものの見方も多方面から見たり感じたりすることができる子どもたちに育ててほしいと願っています。

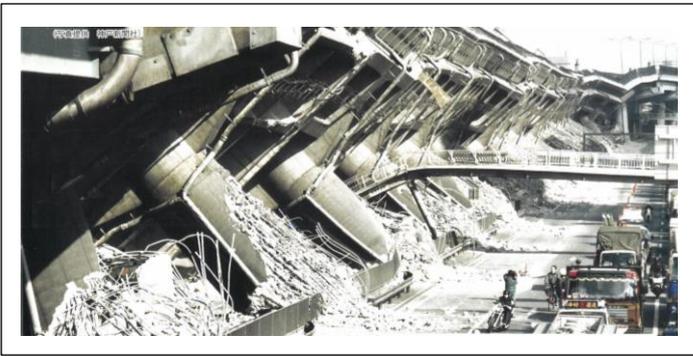
つつい自分の視点のみで行動しがちになりますが、自分が話したり行動したりする時には、相手の存在があります。自分に関わっている人たちの心（気持ち）を考えながら生活することでより充実した学校生活を送ることができます。そして、「多角的な視点」「多角的に考える力」は、何よりも、自分の人生において大切な力となることと思います。

3学期初日、各クラスでは、子どもたちの発達段階に応じた『人を大切にするこ』を根底においた学級指導を行いました。

大漁
朝やけこやけだ
大漁だ
大羽いわしの
大漁だ。
浜はまつりの
ようだけどの
海のなかでは
何万の
いわしのとむらい
するだろう。

※とむらい…葬式

阪神淡路大震災から27年



1995年1月17日に、阪神淡路大震災が発生しました。あれから27年。年月は経ち、まちはどんどん復興してきました。しかし、人々の心はどうでしょうか。大切な家族、友人…を亡くした心の傷は癒えるものではありません。

その後、東日本大震災をはじめ、多くの災害が発生しました。

阪神淡路大震災を経験した人たちは、自分たちの体験をもとに被災地の支援にも力を尽くされています。

今年度、本校で実施した『はるかのひまわり絆プロジェクト』も、その一つです。

来週は、地震・津波による避難訓練も計画しています。避難訓練が生きて働くものになるよう、今週は、阪神淡路大震災のことや災害から命を守る方法について学習していきます。ご家庭でも、防災について話をしていただけると有り難いです。

はるかちゃんからあすかへ
咲かせよう 希望の花

平成7年1月17日大きな地震が神戸を襲いました。本館の建物は、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされていました。はるかちゃんお母さんの下から発見されたのは、地震発生から7時間後でした。震災から半年後、はるかちゃんの家があった空き地。はるかちゃんのお母さんを見つめた場所には驚いてここに、無数のひまわりの花が、力強く、本館に向けて咲いていました。お母さんはひまわりを見て、「随分ひまわりとなって帰ってきた」と涙しました。近所の人たちは、この花をこよ呼びました。

『はるかのひまわり』

はるかちゃんと同級生の娘さんを持つ藤野芳雄さんは、はるかちゃんを助け出せなかった悔しい思いから、はるかちゃんのお母さんへ届かせる活動を思案に凝らして行いました。はるかちゃんお母さんへ届かせる活動は思案に凝らして行いました。はるかちゃんお母さんへ届かせる活動は思案に凝らして行いました。

https://haruka-project.jimdo.com/

はるかのひまわり絆プロジェクト